



第39回定時総会が開催されました



「経営者の弱点は、利己的・小心者・独善的・傲慢・優柔不断・公私混同で言い訳がましくて無責任なところにあります。同友会で学び『労使見解』の深い意味を実感する中で弱点を克服し、自らを変え、企業を変えていくためには経営者の責任を自覚し、同友会理念の体現者である先駆者から生きざまを学ぶこと」を強調されたのは中同協元経営労働委員長の上野修氏です。確かに経営者は多くの優れた資質を持っているかもしれませんが、しかし、だからこそ自らの「弱点」を自覚することなくしては、単なる「お山の大将」で終わってしまうのではないのでしょうか？この厳しい時代、経営者が「お山の大将」では満足な経営はおほつきません。ぜひ月に一度くらいは「労使見解」を読み直して、目指すべき「経営者」のあるべき姿を再確認したいものです。また、毎月の支部例会で、先駆者や奮闘中の経営者「から生きざまを学ぶこと」で、大きな刺激や啓発を受けることができます。今年度も、各支部、委員会で経営者の成長を目指す取り組みが目白押しです。今年度のスローガン「不安定な情勢を乗り越える強靱な企業づくり、同友会づくり」は、まず「経営者」としての「自分づくり」から始まると心したいものです。

DOYU NOW

よろしくお願ひします ~支部・BL長の抱負~



大津支部長 濱本博樹
(有)浜本新聞舗 代表取締役

「元気があれば何でもできる!」らしいです。気軽に参加できて、共に学ぶ仲間との関わりから刺激を受けて、10年後も発展し続ける会社になりたい!そんな人が溢れる大津支部を目指して

「明るく元気に前向きに同友会を楽しもう!」を今期のスローガンに掲げました。また2年後2019年の大津支部設立40周年に向けて、諸先輩方が積み上げてこられた歴史を創り上げていく使命と社会からの期待に応えるべく今後も邁進して参りたいと思います。

湖南支部長 中野光一
(株)びわ湖タイル 代表取締役

本年度の湖南支部キーワードは「連帯」と「あてにしあてにされる関係」です!

同友会理念に【自主・民主・連帯の精神】がありますが、会員同士の腹を割った付き合いと助け合いと

いう連帯の部分意識しての一年にしたいと思っています。そのため、身近な会員の報告、そしてグループ討論を基本に例会を開催します。また例会では毎回プロが編集した動画での会員紹介をし、会員の相互理解を深め「あてにしあてにされる関係」を強化していきます。一年間よろしくお願ひします。



甲賀支部長 川崎博治
(有)ワークロード 代表取締役

今年度のテーマは「実践と学び」です。

経営指針(理念・方針・計画)づくりと実践を基本にして月例会、各委員会、部会、研究会など主な活動への参加を推進して全員参加型の支部

づくりを目指します。日常においては会員同士が身近な経営課題を本音で語り合い、それぞれの課題解決を支援しあえる関係を広げ、場を増やし、皆さんと共に学び合い、経営者としての生きる姿勢を育み成長しあえる支部づくりをめざします。

東近江支部長 嶋田裕士
(有)島田家具工芸 代表取締役

今年度も東近江支部では、同友会三つの目的を各企業が実現すべく活動してまいります。先行きの見えない経営環境の中、強靱な企業づくりには今まで以上に経営者の学びが求められます。同友

会での学びが今の時代に大変有意義であることを会員、地域にしっかりと発信し、地域貢献にも繋がります。また、「会員全員で素晴らしい東近江支部を作ろう」のスローガンのもと、会員同士の親睦、交流を深められる機会を一層増やし、多くの会員が主体的に活動へ参画できる支部を目指します。



北近江支部長 青柳孝幸
(株)PRO-SEED 代表取締役

本年度の北近江のスローガンは「理論的かつ情熱的に 同友会理念の実践を通じてより良い企業づくりを」です。人は頭で理解して、心で動きます。理(論)と情(熱)の両面が経営者には必要

だと思っています。例会や地域会で会員同士の知り合い学び合う活動を強め、経営指針を創る会やMGへの参加等をひろげ、良い会社を創る為に、経営者同士が熱く経営について語り合い、同友会理念の実践を通じて真摯に学び合う支部づくりを目指していきたいと思っています。



高島ブロック長 川原林 弘康
(株)社川原林工務店 代表取締役

本年度の高島ブロックのスローガンは「経営指針の成文化と実践で元氣なよい会社をめざそう!」です。同友会は経営者が学ぶ場。元氣な仲間による例会の実践報告の充実。気軽に参加で

きる「よろず座談会」で悩みや課題を本音トーク。同友会活動を通して会員同士が切磋琢磨し、元氣な会社をめざす。その活動が新しい仲間づくりとなり、高島の活性化につながればと思いますので、皆様のご協力をよろしくお願ひいたします。



2017年度スローガン

不安定な情勢を乗り越える 強靱な企業づくり・ 同友会づくりを進めよう

～経営指針の成文化と実践、共育・採用を軸に経営課題を解決しよう～

2017年度、滋賀同友会は「人を生かす経営」の総合実践、経営指針に基づく企業づくり、二、地域や社会の要請に応えられる企業づくり、三、中小企業の発展を支える同友会づくりの三つの柱を重点方針として、次の課題に取り組んでまいります。

第一の柱は、労使見解に基づく経営指針づくりと指針経営の実践です。経営指針を創る会「成文化コース」「オープンコース」を開催することによって、まず経営姿勢を確執し、成文化した指針書を社員と共に推進する覚悟と技術を身につけます。そして、指針経営実践の成果である「滋賀でいちばん大切にしたい会社」認定にチャレンジする企業を増やします。

支部や部会の例会では、同友会型の企業づくり実践をグループ討論で学び合うことを重点にするほか、学び合い活動の集大成である第28回滋賀県経営研究会を開催します。

若手・幹部社員などの階層別研修を実施し、人材の定着と育成に努めます。

労使見解の精神による経営姿勢の確立と経営指針経営の実践、共同求人活動による若手人材の採用と企業づくり、社員共育活動による人材の定着と育成を一体として取り組みます。

第二の柱では、地域社会を支える企業として、地域で働き・暮らすことを担うために、多様な人材の雇用や、就労支援の取組みを広めます。中小企業の7割近くが後継者不在と言われるもとで、次代を担う若手経営者や後継者の育成にも努めます。

滋賀で学ぶ学生が滋賀や自分の地元で働き地域で活躍する意義を伝えるために、大学生のインターンシップ等でキャ

リア教育を推進します。

2019年秋に開催する第20回障害者問題全国交流会に向けて、障害者の職場体験受入れを広げ、雇用の実践から良い企業づくりのあり様を学び、特別支援学校や就労支援組織と連携し、働く意欲と能力のある人が普通に働くことができる職場づくりや環境整備に努めます。

第三の柱は、会員一人ひとりが主人公の増える組織・減らない組織づくりを進め、自立的で元氣な滋賀を担う同友会を、地域法人数の10%…

1,400名の会勢を展望する組織づくり・リーダー育成に努めることです。

中同協5万名達成方針と2019年度滋賀同友会創立40周年に会勢800名を達成するため、同友会活動の魅力や蓄積し、地域へ発信し、組織を強化拡大する戦略的な広報活動に着手します。同友会事務局が滋賀での同友会運動の発信拠点として、また日常的な組織建設の担い手としての役割を担うために、中長期的な視点で人材の確保と育成を行います。

2017年度滋賀県中小企業家同友会役員名簿 (敬称略・順不同)

No	理事会	氏名	会社名	社内役職
1	相談役	岩部 英世	法面プロジェクト㈱	取締役
1	相談役理事	坂田 徳一	㈱坂田工務店	代表取締役
2	代表理事	藤山 孝夫	滋賀建機㈱	会長
3	政策委員長・副代表理事	青木 孝守	㈱あくり進学	代表取締役
4	総合活性化委員長・副代表理事	井内 良三	㈱タオ	代表取締役
5	新産業創造委員長・副代表理事	坪田 明	大津発條㈱	代表取締役社長
6	副代表理事	永井 茂一	㈱ビアライフ	代表取締役
7	副代表理事	水野 透	㈱渡辺工業	代表取締役社長
8	副代表理事	宮川 卓也	宮川ハネ工業㈱	会長
9	経営労働委員長	服部 兼一	服部コンサルタント事務所	代表
10	共育(求人)委員長	小田 祐喜暢	大洋産業㈱	代表取締役
11	ユニバーサル委員長	田井 勝実	滋賀ビジネスマシン㈱	代表取締役社長
12	経営研究会実行委員長	北野 裕子	㈱エフアイ	代表取締役社長
13	青年部幹事長	石川 朋之	㈱HONKI	代表取締役
14	高島ブロック長	川原林弘康	㈱川原林工務店	代表取締役
15	大津支部長	濱本 博樹	㈱浜本新聞舗	代表取締役
16	湖南支部長	中野 光一	㈱びわ湖タイル	代表取締役
17	甲賀支部長	川崎 博治	㈱ワークロード	代表取締役
18	東近江支部長	嶋田 裕士	㈱嶋田家具工芸	代表取締役
19	北近江支部長	青柳 孝幸	㈱PRO-SEED	代表取締役
20	専務理事	廣瀬 元行	滋賀県中小企業家同友会	専務理事
21	事務局長	大原 学	滋賀県中小企業家同友会	事務局長
1	会計監査	高橋 信二	(社福)ひかり福祉会	専務理事
2	会計監査	前出 博幸	前出産業㈱	代表取締役

共育(求人)委員会

共育委員会では、委員の上田幹人さん、宮川草平さんより共育・採用について体験報告をしていただき、ディスカッションを行いました。ディスカッションでは、継続して採用活動に取り組めないことや、若い人材(財)を定着させられない、共育の体制が整っていないといった意見が共通して挙がりましたが、自社以外の取り組みなどが聴くことができヒントも得られたのではないかと思います。分科会を通して、社員さんの退職までの働き方の計画と、社員さんそれぞれの立場に応じた研修の必要性、また若手を採用し定着させることができる企業しか存続できない時代で、単なる人取りでなく中小企業で働く意義・魅力を連帯の力で発信し、採用力を磨くことのできる共同求人活動の大切さを改めて学ぶことができました。(田中和樹 記)



経営労働委員会

経営指針を創る会の修了者3名[田中 真(株)サン機工・西村 隆(株)ピアライフ・加賀山望 安心コンサル(有)]による、「創る会受講前と修了後」について発表していただきました。創る会を卒業間もない田中



氏と西村氏には受講に至る背景やその動機について、加賀山氏からは成文化した指針書を社内で共有

するために発表会や研修などの共育ちをどのように取組んでいるか報告をしていただきました。その後、分科会参加者お一人おひとりより感想を伺いました。労使見解を実践するには、創る会を経営理念の成文化に終わらせず、同友会運動の中で経営指針の実践に向けて切磋琢磨する仲間をつくっていくことの重要性が強く伝わった分科会でした。(川邊和明 記)

総会 分科会 ご報告

ユニバーサル委員会

『株式会社 小寺製作所』での実習報告をコーディネーターの立場から滋賀県地域若者サポートステーションの橋本剛氏から、『株式会社 安土建築工房』での実習報告を実習当事者の立場から県立聾話学校の仲田愛美氏、受け入れ事業所の立場から安土建築工房の小南一樹氏がひとつの事例を通してそれぞれお話しいただきました。

障がい者を職場体験で受け入れることについて、頭だけであれこれ考えると心配が先立ち不安だけが膨らみますが、実践してみると取り越し苦労にすぎず、職場の工夫で“できること”は想像していたよりも多く、当事者と受け入れ事業所双方にとって好影響があることが明白であることに気づかされる内容でした。(遠城孝幸 記)



例会・組織活性化委員会

例会・組織活性化委員会(通称:支部活)が主催する第4分科会のテーマは、「とってもしっかり支部運営」でした。

どのような考えで、またどのような方法で支部運営を行うと楽しい支部運営ができるかについて、最初に井内が問題提起を行い。それを受けて各支部(参加人数の少なかった北近江支部、甲賀支部、高島ブロックは合同)で、グループ討議を行いました。



結果、支部長、委員長、運営委員が、どのような支部にしたいのかのイメージを共有し、それに近づく為の目標や方策を検討、決定し、結果を正確に測り、方策や実行に改善を加え続ける。いわば、指針経営を以て支部運営を行うということが大事だということになりました。(井内良三 記)

どのような考えで、またどのような方法で支部運営を行うと楽しい支部運営ができるかについて、最初に井内が問題提起を行い。それを受けて各支部(参加人数の少なかった北近江支部、甲賀支部、高島ブロックは合同)で、グループ討議を行いました。